



ヤマザキマザック美濃加茂製作所では国内全拠点で工作機械に組み付ける主軸を一手に生産

車の挽回生産などで動き



オーケマは生産性向上と、需要変動に柔軟に対応できる体制づくりを進める(可児工場のライン)

2月の工作機械メーカー、主要8社の総受注額は前年同月比10.7%減の288億3000万円で、2カ月ぶりに前年を下回る。前月比2.2%減で3カ月連続でマイナス。このうち、国内受注は同2.5%増の103億7000円と2カ月ぶ

のが可児工場の「自己完

成率を2割から8割に高める計画。

このため、中・小型機の組み立てでモ

大形機に向けた、同方式は従来

の取り組みで生産性を

ボーン(魚の骨)方式

を確立した。日本製より機能

を絞り込んだ新興国戦略

を推進するため、13年3月

にこれを組み付けるメ

リネジ、ティープ、といっ

た主要部品ユニットを作

り、自動車部品の効率

を向上させる「フィッシュ

ボーン」(魚の骨)方式

を確立した。日本製より機能

を絞り込んだ新興国戦略

を確立した。日本製より機能